

新A棟フロア紹介



3F 小児科外来
 少しでも子どもがリラックスして診療を受けられるように、診察室の扉には動物園の人気者のイラストを施し、明るく・親しみやすい環境になっています。



3F 眼科外来
 診察室、検査室ともに広くなり、車いすや高齢の患者様の受診もスムーズです。各種検査機器をアップデートし眼科電子カルテ内に一元管理することで、より精密な医療が提供できるようになりました。待ち時間も短縮されます。



1F 救急・時間外受付

ばんたねニュース

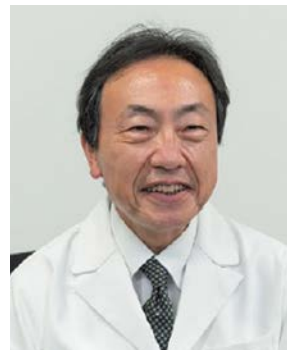
FUJITA HEALTH UNIVERSITY BANTANE HOSPITAL



VOL. 53

2023年
9月1日発行

新棟が完成しました!



副院長・内科学主任教授
 いなくま だいじょう
稲熊 大城

待ちに待った新棟の完成となり、ばんたね病院職員一同、たいへん嬉しく感じるとともに、一層地域の皆さまからの信頼を得るために、努力しなければならない使命を自覚しています。

新棟は地下1階地上4階であり、画像診断フロア、救急外来、内科外来、小児科外来、眼科外来、手術室ならびに血液浄化センター（透析室）から構成されています。画像診断フロアには最新の装置を取りそろえ、高いレベルの診断が可能です。救急外来はこれまでと比べ広いスペースを備え、多くの救急疾患に対応できるようになりました。手術室も2室増えたことで、多くの手術を同時にできるようになった他、高度な手術に対応可能なスペースを確保しました。

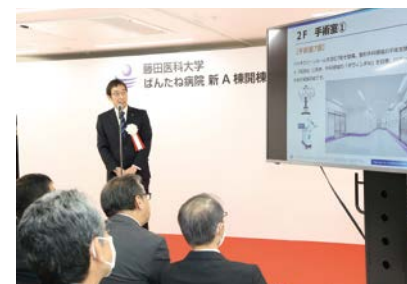
私自身の専門は腎臓内科医であり、血液浄化センターの新設を心待ちにしておりました。血液浄化センターについてはベッド数が21床と大幅に増加し、入院を要する透析患者様のみならず外来通院透析にも対応できるようになりました。透析患者様は合併症を持っていることが少なくありませんが、当院にはほぼ全ての診療科が揃っており、それらの合併症に対する治療も同時にでき、患者様に安心して治療を受けていただけます。透析医療には医師のみならず看護師、臨床工学技士ならびに管理栄養士など多職種によるチーム医療が不可欠です。職種間の連携については、どこにも負けないチームワークを持って地域における透析医療を支える決意です。



血液浄化センター



新棟外観



開棟式の様子



匿名加工情報の作成及び第三者提供について

○匿名加工情報の作成について

当院が保有する患者様の個人情報について、当院は、特定の個人を識別すること及び個人情報を復元することができないよう適切な措置を講じたうえで匿名加工情報として作成いたします。

【匿名加工情報に含まれる個人に関する情報の項目】

- ・診療のために収集された診断画像

○匿名加工情報の第三者提供について

当院が作成または保有する匿名加工情報について、当該情報が匿名加工情報であることを明示したうえで、継続的に第三者に提供いたします。

【匿名加工情報に含まれる個人に関する情報の項目】

- ・左記「匿名加工情報の作成について」における「匿名加工情報に含まれる個人に関する情報の項目」と同一の項目

【提供の方法】

- ・紙媒体により当院内で配布および院外の医療施設へ郵送
- ・当院Websiteにて掲載

藤田医科大学ばんたね病院

FUJITA HEALTH UNIVERSITY BANTANE HOSPITAL

〒454-8509 名古屋市名川区尾頭橋3丁目6番10号

TEL) 052-321-8171 FAX) 052-322-4734 発行) 広報委員会

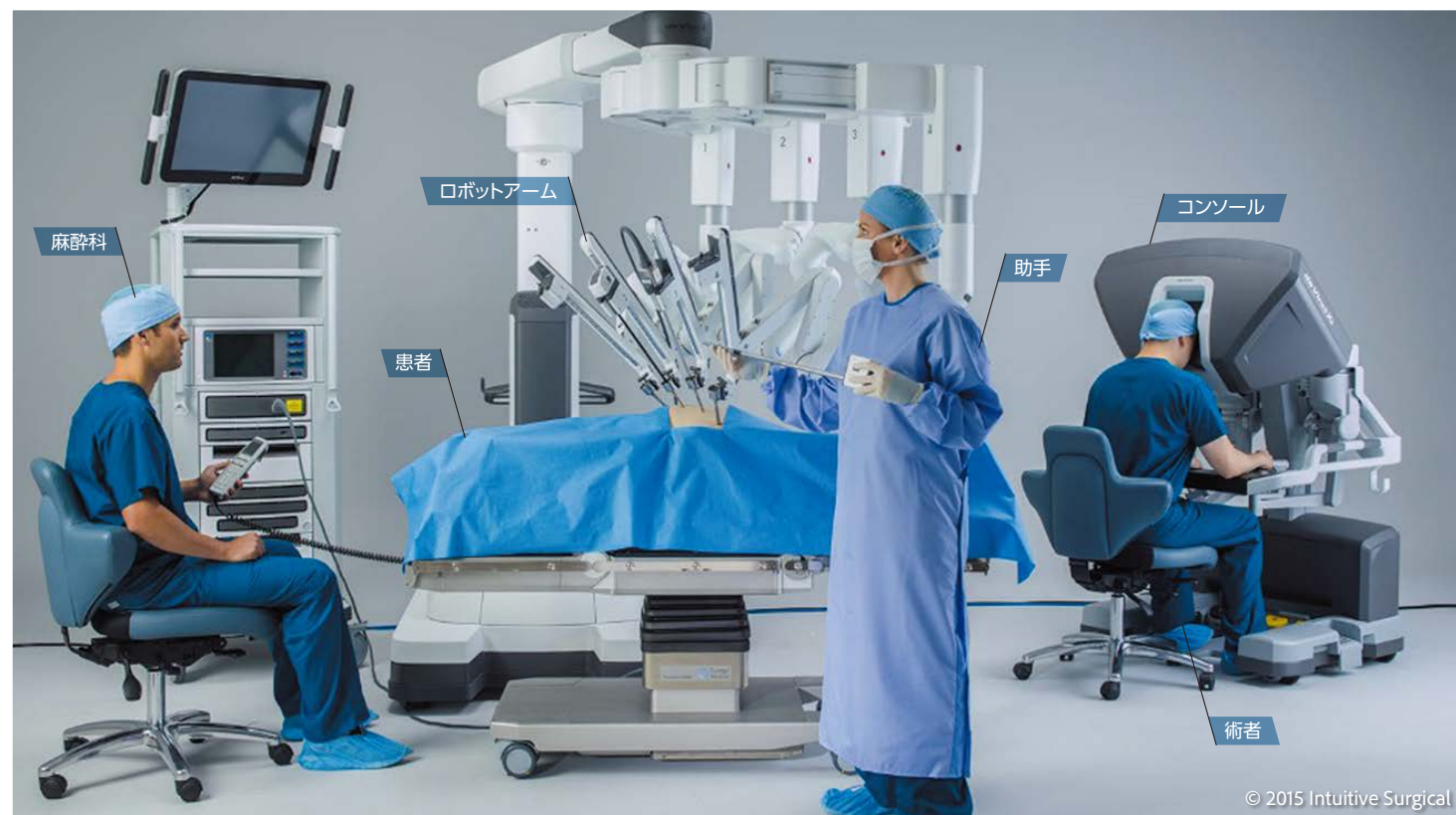
QRコードで今すぐアクセス

ばんたね

検索



ダビンチXiシステムを用いたロボット支援手術



新A棟手術室ダビンチXi



新A棟手術室2台のコンソール



コンソール



マニピュレータ



ロボットの搬入

2023年8月に開設されるばんだね病院新棟には手術室が新規増設され、その中に手術支援ロボット（ダビンチXiシステム）が設置されます。ここでは新しく導入されるダビンチを用いたロボット支援手術（以下、ロボット手術）について解説します。

ロボット手術とは、手術を行う医師が患者さんから離れた場所にある操縦席（コンソール）で指につけた機器（マニピュレータ）を動かして、患者さんの身体にドッキングしたロボット機器をコンピュータ制御により遠隔操作して行う手術です。患者さんの身体にはポートと呼ばれる8mm径の筒状のものを4本留置し、これに4本のロボットアームをそれぞれドッキングさせます。腹部手術では、腹腔鏡手術と同様にお腹の中に炭酸ガスを注入して膨らませ、ロボットアームに装着した内視鏡で中を見ながら残り3本のアームに装着した鉗子で手術します。患者サイドには助手を務める医師が必ず1～2名おり、鉗子の入れ替えや助手操作を行います。

ダビンチの場合、コンソールは患者さんから数メートル離れていますが、コンソール操作とロボット鉗子の動きの時間差はほぼゼロです。また人間の手や指よりさらに自由な動きが可能な多関節鉗子、手ブレが全くない、15倍率までの拡大視野が高精細な3D画像で見られる、といったロボット特有の機能的利点があり、様々な操作を大変丁寧で安全に行うことができます。これにより出血量が少なく、術後合併症が少なく、早く退院できるようになってきています。また腹腔鏡では難しそうでもロボットでならこれらの利点を活かして安全に行うことができる手術もあります。その一方で、鉗子の入れ替え時間などで手術時間が腹腔鏡よりも多少長くなる術式も一部あります。

ロボット手術は当初泌尿器科（前立腺や腎臓など）や婦人科（子宮など）で発達しましたが近年では消化器、呼吸器、心臓、耳鼻咽喉科疾患、整形疾患など多くの領域で急速に普及しています。その理由は、ロボット機能の利点を活かすことで、手術の安全性が向上し、患者さんの身体に負担が少なく回復も早くなること（低侵襲手術）が患者さん・医療者とも実感できるようになったからです。創が小さいという整容的利点のほかに、身体機能に余裕がない高齢者患者さんには、低侵襲手術によるメリットは大きいです。また最近、一部臓器ではロボット手術によりがんの長期成績も向上することが示されています。これを反映して、わが国では、基準を満たす施設では、多くのロボット手術術式が国民健康保険で実施できるようになりました。

当院ではこのたびダビンチXiが導入されますが、本機器はアーム4本タイプの標準型ロボットとしては多くの関連機能を搭載した最新鋭のもので、また同じ手術室にコンソールを2台置くことが決まっております。二人の術者が手術中に連携・協力しながら最良の技術を提供できるようになります。当院では、ロボット導入に合わせてロボット手術の経験豊富な医師が赴任しており、一人でも多くの患者さんがより良いロボット手術を受けられるように努力して参ります。



消化器外科 臨床教授

かとう ゆうたろう
加藤 悠太郎

2023年6月1日付で藤田医科大学病院よりばんだね病院に赴任しました。消化器外科とくに肝胆膵疾患に対する手術を軸とした総合的治療を25年以上やっています。腹腔鏡やロボットによる肝切除を多く経験し、ロボット肝切除は国内で唯一100例以上の経験があります。一方で血管や胆管を巻き込んだ腫瘍に対する高難度の開腹肝切除や肝臓移植も手がけてきました。手術だけでは不十分な疾患に対しては積極的に薬物療法や放射線療法も組み合わせて総合的に対応します。患者さんの相談に乗り、希望をお聞きして、最大限の治療を提供するよう努めます。

「専門分野」

肝胆膵外科、とくに肝胆道外科全般、ロボット・腹腔鏡手術
日本外科学会指導医・専門医、日本消化器外科学会指導医・専門医、日本消化器病学会専門医、日本肝胆膵外科学会高度技能指導医、日本内視鏡外科学会技術認定医、日本肝臓学会肝臓指導医・専門医、日本移植学会移植認定医、日本癌治療学会がん治療認定医、ダビンチコンソールサージョン資格